

第45回世田谷区新型コロナウイルス感染症対策本部会議  
(新型コロナウイルス感染症対策に係る有識者との意見交換)

会議録

日時 令和3年1月18日(月) 18:30～20:00

場所 世田谷区役所第1庁舎5階 庁議室

出席者 有識者 小原道法氏、窪田美幸氏、吉本一哉氏

有識者の方々はリモートによる会議出席

世田谷区 保坂区長、中村副区長、加賀谷政策経営部長、田中総務部長、

菅井危機管理部長、澁田保健福祉政策部長、

有馬保健福祉政策部次長、辻世田谷保健所長、

鶴飼世田谷保健所副所長、寺西世田谷保健所副参事(住民接種担当)

事務局 総務部総務課

次第 第45回世田谷区新型コロナウイルス感染症対策本部会議

(新型コロナウイルス感染症対策に係る有識者との意見交換)

- 1 開会
- 2 区の概況報告および現状分析について
- 3 新型コロナウイルスワクチン接種についての意見交換
- 4 閉会

令和3年1月18日

第45回世田谷区新型コロナウイルス感染症対策本部会議  
(新型コロナウイルス感染症対策に係る有識者との意見交換)

午後 6 時47分開会

田中総務部長 お待たせをしておりますが、窪田先生が登場する前に、資料の確認等を先にさせていただければと思います。

進行させていただきます総務部長の田中でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

まず、今日の会議における留意点でございますが、オンライン会議ということで通信状況などの影響により音声がかかる場合や届かない場合などがもしかしたらあるかもしれません。その際には、お手数ですが状況をお伝えいただければ幸いです。また本日の会議内容につきましては、議事録を作成し、皆様に御確認いただいた上で原則公開する予定でございますので、あらかじめ御承知おきくださいますようお願いいたします。

次に、配付資料の確認をいたします。有識者の方々には事前にデータを送付させていただいておりますが、次第、名簿、座席表のほか、資料 1、そしてその参考資料が 2 点、それから資料 2、また、玉川医師会様よりの資料 1 点を配付してございます。各資料右上に資料番号を記載しておりますので御確認をお願いします。不足がございましたら、再度データを送付いたしますのでお申出ください。

それでは、開始予定時刻を大分過ぎておりますので、ただいまから第45回世田谷区新型コロナウイルス感染症対策本部会議（新型コロナウイルス感染症対策に係る有識者との意見交換）を始めさせていただきます。

本日は過去 2 回と違いまして、新型コロナウイルス感染症の感染拡大も踏まえ、オンラインによる開催とさせていただきます。御出席いただきありがとうございます。

それでは、会議の開催に当たりまして、保坂世田谷区長より御挨拶を申し上げます。

保坂区長 大変お忙しいところ、ありがとうございます。区長の保坂展人です。有識者の皆様に御意見を伺う機会が、昨年 2 度ほどありました。今回ワクチンということで、現在開発中の小原先生も、お忙しい中、参加されていらっしゃるの、区のほうの今の準備状況、そして率直な意見交換をさせていただけたらと思います。どうかよろしくお願いいたします。

田中総務部長 ありがとうございます。次に、本日御出席の有識者の皆様を御紹介させていただきます。

公益財団法人東京都医学総合研究所感染制御プロジェクト特任研究員の小原道法様でございます。

玉川医師会会長の吉本一哉様でございます。

窪田会長は、後ほど参加されましたら、改めて御紹介をさせていただきます。

次に、区側の出席者を紹介いたします。

ただいま御挨拶を差し上げました保坂区長です。

副区長の中村です。

政策経営部長の加賀谷です。

危機管理部長の菅井です。

保健福祉政策部長の澁田です。

保健福祉政策部次長の有馬です。

世田谷保健所長の辻です。

世田谷保健所副所長の鵜飼です。

世田谷保健所住民接種担当副参事の寺西です。

そして、改めまして総務部長の田中でございます。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、本日の会議進行について御説明いたします。

次第を御覧ください。まず、区の概況と現状分析につきまして御報告をいたします。その後、新型コロナウイルスワクチン接種についての意見交換として、皆様から御意見をいただきたいと思っております。なお、終了時刻は20時を予定してございます。

では、議事に移ります。次第の2、区の現状分析に関しまして、世田谷保健所長の辻より御報告いたします。

辻保健所長 私から、この間の状況について御説明をしたいと思います。資料1を御覧ください。

まず、資料1の左上でございます。この間のコロナウイルス感染症の患者さんは、合計で6,861人となっております。その下、年齢ごとのところを見ていただきますと、依然として若い方が多いんですけども、全体の数が多くなってまいりまして、高齢の方も大変多くかかられております。70代、80代、90代、また100代の方も今患者さんとして発生しているところでございます。

その下、区内の施設感染状況でございますけれども、最近、毎日のように高齢者施設で感染拡大をみておりますので、大変危機的な状況と思っております。

1枚めくっていただきまして、次のページは、各地域における患者数ですが、その次のページ、丸いグラフが書いてあるところを見ていただければと思います。男女別の割合

は、前は男性が6割、女性4割だったんですけれども、だんだん両方が同じぐらいになってまいりました。そして、先ほど申し上げたように、その下のグラフですけれども、年齢別状況は、依然として若い方が多いですけれども、やはり全体数が多くなって非常に重症化する高齢者の方もかかるようになってまいりました。

その下の棒グラフも見ていただきますと、この年末年始のところの立ち上がりです。そこが非常に高くなってまいりまして、皆様御存じのように、年明けに緊急事態宣言という状況になりました。世田谷区におきましても、この年末年始、非常に患者数が増えまして、ちょっとフェーズが変わったなと感じたところでございます。

ちょっとお時間を頂戴しまして、この間の世田谷区の感染症の取組みについて、保健所側から3点御報告したいと思っております。

1点が、区内大学への感染予防策の普及啓発でございます。こちらは、今日は御出席されていないですけれども、児玉先生からの御指摘もありまして、私ども取り組ませていただきました。世田谷区は住宅都市でありまして、特定の職種ですとか特定の場所での患者集積は見られないんですけれども、そのため特定の対象に集中して感染予防を取るということはしていなかったんですけれども、御指摘を受けまして、区内の大学、結構多くありますが、複数の大学の運動部ですとか寮でクラスターが発生したこと、また先般この有識者との意見交換でも御意見をいただいたことも念頭に、大学の窓口担当であります交流推進担当部と連携しまして、大学学長と区長との懇談会というところで区の新型コロナウイルス感染症対策の説明を行ったことに加えまして、各大学に改めてオンラインで普及啓発の講習会を行ってございます。その場で質問も受けまして、大学間の情報共有も行ったところでございます。

2点目なんですけれども、先ほどこの年末年始でフェーズが変わったというところで、高齢者施設等に重点化した疫学調査等の対応についてちょっと御説明させていただきます。12月に入りまして患者数が増加しておりまして、そのため年末年始につきましては12月31日、1月1日を除きまして、区のほうの発熱相談センターと区の行政検査を実施したところでございます。また、患者対応、それから濃厚接触者の対応は当然年末年始も休まず行うため人員配置はしていたんですけれども、12月30日以降、こちらが想定する以上の患者の急増がありましたため、12月30日から1月3日にかけては、当初の予定より大幅な人員増で対応いたしました。

あわせまして、患者急増を受け、区としてもフェーズが変わったという判断から、この

状況下で、区民の命を守ることを優先するために、区の新型コロナウイルス感染症対策本部長、副本部長に報告しまして、あと医師会の事務局にもお伝えし、また東京都にも相談した上で、令和2年11月20日に国のほうの事務連絡があったんですけれども、「積極的疫学調査における優先度について」に基づきまして、疫学調査の優先順位をつけまして、より重症化しやすい高齢者やその施設、それから病院、また基礎疾患のある患者を優先的に調査確認し、必要な入院等の調整をすることといたしました。

しかしながら、入院病床の逼迫で、連日入院対象の患者が自宅待機となりまして、その後もその状況は現在まで続いております。また、ホテル療養の対象者も調整が難航しておりまして、先日東京都にお聞きしたところ、現在5日ぐらいかかっている状況が継続しているということでございます。区といたしましては、東京都の方針である入院、ホテル療養を基本として対応しておりますけれども、さきに述べた理由から、在宅療養者が非常に増加して、その健康観察及び体調悪化時の病院調整に日々苦慮しております。

なお、この疫学調査の優先的な対応は、東京都も今週中にも方針を公表すると聞いております。区といたしましては、国の通知に基づきまして、東京都より少し先んじて疫学調査の優先的対応を図ったこととなります。この状況につきまして、皆様には非常に御協力いただいたところでございますけれども、引き続き、御理解、御協力をお願いしたいと思っております。

次に、これに関連したことなんですけれども、福祉施設等の社会的検査活用の取組みというのを行いました。世田谷区では、御存じのとおり、社会的検査として感染の可能性によらない福祉施設の検査を行う仕組みがございますけれども、12月からはその患者が増加したことを受けまして、保健所が把握する前に施設所管、例えば高齢、障害、子どもの施設担当所管が、先に施設で陽性者発生を把握した場合は結構出てきたので、保健所がその濃厚接触者等特定する前であっても、施設の職員及び利用者を含め、施設丸ごとの検査を、社会的検査を利用していただくよう施設担当所管から勧奨してもらうようにしております。実際この仕組みで高齢者施設や保育園等の検査を迅速に実施した例がございます。

このような取組みを現在しておるところでございますけれども、引き続き、患者の発生の抑制を区としても普及啓発等で取り組んでいきたいと思っております。あと、この後に御説明する予防接種も、患者を減らす、または感染拡大を防止するために大変必要と思っております。

私からは以上でございます。

田中総務部長 ありがとうございます。ただいま辻保健所長より、区内の感染状況並びに保健所としての取組等について御説明をいたしました。何か御質問等、コメントをいただければと思いますが、小原先生いかがでしょうか、何かございますか。

小原氏 とても分かりやすい御説明で、よく現状が分かりました。あと、12月末から、本当にこの年末年始にかけて急激に上がってきているのが、どんなウイルスが増えているのかとか、そういうのを今解析中なんですけど、まだ特定のものが増えているという感じではないようです。接触者が多かった、それで拡散が広がってきているということが今のところ分かりますという状況です。

田中総務部長 ありがとうございます。

なお、今、窪田先生が入られました。どうぞよろしく願いいたします。

ただいまの説明について、吉本先生いかがですか、何かございますか。

吉本氏 現状がよく分かりました。ありがとうございます。

田中総務部長 ありがとうございます。

それでは時間もございますので、次の報告に移りたいと思います。新型コロナウイルスワクチン接種についての意見交換でございます。こちらにつきまして、まず区のほうで現状報告と課題提起をいたしまして、その後、玉川医師会様より資料も頂戴しておりますので、吉本会長から御説明をいただきたいと考えてございます。

それでは、御説明をお願いいたします。

辻保健所長 資料2を御覧ください。こちらはワクチン実施における課題等についてまとめたものでございます。まず、今の準備状況について、また区の状況について御説明した後に、私どもが課題と思っていることについて御提示させていただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

まず、1の主旨でございますけれども、その2段落目でございます。区では、国が想定している最速の接種スケジュールを視野に今準備を進めておりまして、現時点で集団接種等の運営方法を検討しているところでございます。

2のワクチン接種の事業概要、1枚めくっていただきまして、別紙1を御覧ください。私どもの世田谷区は、区民が92万と多いものですから非常に接種が大変かなと思っておりますけれども、実施主体は世田谷区、対象者は区民92万人です。その内訳ですけれども、優先接種順に書いてございます。まず、医療従事者の皆様が3万人ぐらい、その後、高齢者が18万人強、その後、基礎疾患を有する者、それから高齢者施設等の

従事者というふうが続いてまいります。

3の接種回数ですが、1人当たり2回となっていますので、区民92万人で184万回という回数になります。

実施場所につきましては、区内の医療機関、それから区内の施設等で集団接種等を考えていかなければならないと思っております。

費用については、今のところ国費、自己負担なしとなっております。

接種スケジュールなんですけれども、先ほど国の最短と申しましたけれども、そちらをお書きしています。令和3年2月下旬頃に医療従事者の皆様を対象者として接種されるという想定となっております。その次の高齢者からは、多分、来年度明けてすぐ、4月からという形で今想定されているところでございます。それに沿って私どもは今準備をしております。

表の紙に戻っていただきまして、3でございます。今、1のところでは集団接種が必要ではないかと申し上げましたのは、皆様御存じのとおり、初めに供給されますワクチン、ファイザー社のワクチンということに起因するものでございます。

3の(1)92万区民への迅速な接種、こちらは合計184万回の接種が必要でございます。そのために結構短期に集中的に接種を行うためには、集団接種の実施が不可欠であろうと思っております。

ここで、別紙2を御覧いただければと思います。ワクチンの特性について書いてあるものでございます。ファイザー社、アストラゼネカ社、武田とあるんですけれども、今現在ファイザー社が一番初めて出てくるだろうと想定されておまして、こちらの扱いにつきましては御存じのとおりでマイナス75度であること、それからほぼ1000回分のワクチンが1回に供給され、それをきちんと打てるようなところが想定されていること、こちらの難しさがありまして、しかも3週間ぐらいで2回打たなければいけないということで、供給量、それからワクチン設置場所が非常に課題だと思っております。

一方で、アストラゼネカ社が出てくると、こちらは結構診療所さんでも打っていただきやすいのかなという想定でございます。武田のほうに関しましては、ファイザー社よりは扱いやすいものの、やはりマイナス20度のフリーザーが必要というふうになってございます。

また表の紙に戻っていただきまして、こういうワクチンの特性を考えますと、3の(2)ですが、ファイザー社のワクチンが来ますので、やっぱり集団接種をしなければいけない



だろうということで、4の集団接種の想定案です。やはり集団接種するための場所ですとか、人員の確保、あと区民の方がどれだけ来ていただけるか、曜日設定とかそういうことにもよるんでしょうけれども、そういったことを考えていかなければいけないなと思っております。どこでできるかを考えて、ディープフリーザーをどこに設置できるかを今後考えていかなければいけないので、そちらを例えば医師会の皆様とも御相談をしなければいけないなと思っております。こういったことが今の現状でございます。

裏面に行っていただきまして、こちらが皆様から御意見をいただきたい項目でございます。ちょっと読ませていただきます。

1つ目なんですけれども、小原先生が開発を進めていらっしゃるワクチン、先日資料をいただきまして、どうもありがとうございます。こちらのワクチンにつきまして、御教示いただければと思っております。

2つ目ですけれども、先日ちょっと聞いたところ、ファイザー社のワクチンは、今は年齢16歳以下の接種については想定されていないというふうになっております。こちらについて今後の見通し、それからほかの会社のワクチンについては、年齢制限等についてはどうなっているのかを教えていただければと思っております。

3つ目でございます。この間、例えば10万件に1件ぐらいファイザー社の予防接種でアレルギー、アナフィラキシーショックが起こったという報道もありまして、こちらの海外での副反応の発生状況ですとか、接種の禁忌者、副反応をやはり30分ぐらい会場で見なければいけないのかということ、それからその発生時の対応についてどの程度のことが必要かというのを教えていただければと思います。

4つ目、ファイザー社のワクチンですけれども、以前は小分けにできないということがあったようなんですが、つい最近、国のほうから小分けにしていよいよということも言われておりますので、もし小分けにできたら個別接種を、例えばかかりつけ医でしていただくことが可能かどうかについて御意見がいただけたらと思っております。

次ですけれども、両医師会様のほうにおいて、ファイザー社のワクチンで住民接種を考えることができるのかどうか。例えば医師会さんの事務局等にファイザー社のワクチンを置けるようなディープフリーザーを置いていただいて、配送等が可能かどうかということも併せていただければと思います。

それから、区で集団接種を想定したとき、国の想定に基づきまして、予診医1名に対して1名の看護師が打つということではなく、複数の看護師で打つということを想定する

と、医師も減らすことができるかなと思っておるんですけども、国の言うとおりにしないと安全面に問題があるのか。また、1人の看護師が1時間に打てる想定が、国ですと15件になっているんですね。そうすると本当に件数が稼げませんので、実際は1時間に何回ぐらいの接種が可能かと先生方は考えていらっしゃるのかをお聞きしたいと思っております。

次ですけれども、集団接種の会場で、狭いところでやるとなかなか難しいのかなというのがありまして、例えば海外ではスタジアム等も最近使い出したというのも聞いております。屋外にテント等を設置して実施するという事は、例えば衛生面とか安全面で問題はあるかないかについてお伺いしたいです。

あと、ファイザー社のワクチン以外のワクチンの動向についてお伺いできたらと思っております。

最後に、このコロナウイルスワクチンも毎年接種するような形になるのかどうか、ちょっと予想について御教示いただければと思います。

私からの説明は以上でございます。よろしくお願いたします。

田中総務部長 ありがとうございます。質問事項がたくさんありましたけれども、続きまして、吉本会長から玉川地域の案について御説明いただければと思います。お願いします。

吉本氏 私から配らせていただいた紙を見ていただきたいと思っております。玉川医師会でアンケートを行いまして、今の段階で接種に協力するというドクターが110名ぐらい、できないというのが50名ぐらいです。大体120名ぐらいの方が確保できると思っておりますので、それを前提に話させていただきます。

最初は、アナフィラキシーショックなどの可能性があって、集団接種を行って、その安全性を確認した後、個別接種に向かえばいいかと思っております。我々が時間が取れるのが、水木土の午後、または休日の朝から晩までの1日ということになります。水木に関しては、休みのドクターがいますけれども、そんなに人数が多くないので、ラインとしては少なくなります。土曜または休日、日曜日は多くの先生が参加できると思っておりますし、多くの意欲のある先生方の意向を聞いております。そうすると、水木土に関しては10ライン、1ライン2名で組んでおりますので20名ぐらい、そして休日に関しては60名の医師の参加が期待できると考えます。

そうすると、ここに大体書いてありますけれども、1週間で6,000名弱、それから医師

の動員数は延べ120名ということで、緊急事態ですから、ちょっと休み返上で、1週ごとに参加するというのであれば、大体これで可能かと思います。

また、施設に関しては、初めは緊急の救護所のある小学校、中学校を少し考えたんですけども、例えば体育館を使ったときに、感染者がいたときに、親御さんたちにその危険性を指摘されることがあるかもしれないので、そうするとそちらは置いておいて、旧玉川高校の体育館、そして新しくできた玉川区民会館、あとは深沢ホールなど、比較的大きな場所を確保できる、雨をしのげる場所を考えればいいのかと思っております。そうすると3か所に分配しても、日曜日は60名を用意すると20名ずつ配置できるので、例えば看護師の確保は難しくても、問診を医師が行って、そのまま注射もしてしまうということで、ある程度のチームを組んでそれなりの人数の接種ができるかと思います。これがある程度落ち着いた状況で、ファイザー社のではない、室温保存が可能なワクチンが供給できるようになれば個別接種も可能かと思います。

また、フリーザーを置く場所を考えたんですけども、玉川病院の院長は、自前でも当然持っているけれども、例えば病院の中でたくさんの患者さんに接種することは難しいとお答えいただいているので、それは関東中央病院の副院長も同じで、やることはやりますけれども、たくさんの接種は難しいという答えをいただいております。

そうすると、フリーザーを病院においてそこから発送するというよりは、例えば医師会とか等々力の総合支所とかそういうところに置いて、そこから分配するほうがより効率的なのかもしれません。そのときに、卸の力を使うということで、卸は緊急事態ですから自分のもうけにはならないのかもしれませんが、ファイザーに関しては卸を通さずに直接供給するということが決まっておりますので、現在卸は通さないということでありましてけれども、ただ、それではなかなか個別接種のときに各医院に効率的に配ることができないので、この辺は卸の協力が得られればいいのかと思っております。

そのような状況で始められて、そこから個別接種、比較的ドクターが1人でやって、ショックもあまりないよというのが分かっているならば、各ドクターも安心して拡大していくことができるかと思います。大体今はそんな感じで考えております。

あとは、この前、鶏飼様が話した病院のほうはどうですかという話ですが、病院は今言ったように、たくさんの人数を必要な診療とともにやることは難しいということなので、我々としては大きな場所のあるところを確保していただいて、そこに医者が参じるということで考えさせていただきたいと思います。取りあえず、以上です。

田中総務部長 具体的な御提案をありがとうございました。世田谷区医師会様は資料は特にないということですが、今の状況について窪田会長から何か御発言いただければと思いますが、いかがでしょうか。

窪田氏 まず世田谷区医師会は、医療従事者に関してはそれぞれの医療機関で接種することを考えております。それで、フリーザーのほうを最初ある程度何箇所かに分けて、医療従事者の方たちが終わった後、一般はやっぱり玉川医師会と一緒に集団接種を考えております。世田谷区医師会で考えていたのは、木曜と日曜の2日間終日、場所としては保健センターの1階のロビー、それと成城ホールでできればいいかなと思っております。医師としては午前中と午後で10名ずつぐらい、1日に1,000名、それで1週間で4,000名ぐらいはできるかなと。もしもっと必要であれば、水曜日とかにも考えてはいますけれども、集団接種を考えております。

ただ、ここで問題になるのは、やはり全く看護師さんとか事務がいなければ、全員医師だけでというのは無理ですので、ぜひ看護師の確保と事務職員確保はしっかりと世田谷区のほうで用意していただきたいと思っております。今こういうコロナ禍の状況ですから、世田谷区のPCR検査センターでも、看護師や事務職員の確保がとても大変になっております。年末に区内病院の敷地を活用し、世田谷区医師会の救急診療所を開設しましたが、そこで世田谷区のほうで看護師さんと事務職員を人的に支援していただくというお話でしたが、いまだ支援はいただいております。そういう状況で、今度またワクチンの接種が始まりましたら、世田谷区医師会の事務局としても今いっぱい状態ですので、ぜひそういうところは御配慮願いたいと思っております。

田中総務部長 ありがとうございました。

それでは、事務方と両会長の先生方から御説明いただきました件について意見交換をしたいと思いますが、まず初めに、保健所の資料2の裏側に、課題等についてということのでかなりの数を書かせていただいておりますので、もしこの辺について御発言いただけるようでしたらお願いしたいんですけども、いかがでしょうか。小原先生、よろしいですか。

小原氏 一番上に、私たちが進めているワクチンの性質、海外での開発中のワクチンとの違いについてとあるんですけども、我々が進めているのはアステラゼネカなんかによく似たウイルスベクターワクチンになっています。ただ、使える可能性が、フェーズワン、ツーに入るのが今年の後半になってしまうので、今の緊急には残念ながら間に合いそ

うもありません。だから、今はこの議論をしても余り意味がないので、その次の実際に必要とする対応の議論に時間を割かれたほうがいいように思います。

田中総務部長 その下にも、例えば年齢16歳以下の問題であるとか、禁忌者及び副反応等についてというような御質問もさせていただいているんですけども、この辺についても何かコメントはございますでしょうか。

小原氏 2番目の年齢16歳以下には行わないほうがよいのかというのは、実際に安全性試験が16歳以上で行われているので、以下では安全かどうかという試験そのものがないんです。だから、本当に確かめられた年齢でやるんだったら16歳以上ということになります。

あと、3番目の副反応の観察は30分程度ということになっていて、アナフィラキシーなんか起きたときの対応を想定した時間だと思いますので、これは守られたほうがよさそうに思います。

保坂区長 先ほどのファイザー社の16歳以下の治験がないという件ですが、他の2社についてはどうなんでしょうか。

小原氏 ほかの2社について、私も正確なところは把握できていないのですが、16歳以下の若年齢層での治験は普通は行わないので、多分ないんじゃないかと思います。発表されている資料とかを確認されれば、何歳以上でやったというのはすぐ分かると思います。

田中総務部長 ありがとうございます。両医師会長の先生方からも何かコメントございますでしょうか。

吉本氏 区のほうとしての方針をなるべく早く出していただいて、我々もそれに沿えるようにしたいと思います。よろしくお願いします。

田中総務部長 ありがとうございます。窪田先生も何かございますか。

窪田氏 集団接種ということになったときに、まず予約とかそういうものの事務手続きがすごく大変になると思いますので、ぜひそこのところは世田谷区のほうがしっかりやっていただきたいと思っております。前回、新型インフルエンザワクチンときには業者を使ってやりましたけれども、すごくそれが大変だったので、そこのところはしっかり御検討をお願いしたいと思います。

寺西保健所住民接種担当副参事 今日はどうもありがとうございます。今、御指摘いただいた予約の事務手続きの件なんですけれども、今回、区のほうでコールセンターですとか、予約の受付といったものは行う予定になっております。ですので、区のほうで受け付

けた予約を基に会場に行っていただくと。そこで集団接種を行うということを現在想定しているところです。

窪田氏 ぜひよろしく願いいたします。

寺西保健所住民接種担当副参事 では、引き続き質問させていただければと思うんですけども、集団接種に当たって会場の確保というのがやはり大きな課題となっております。質問の中にも書かせていただいているとおり、屋外にテント等を設置して行うということも1つの案として検討しているんですけども、海外では実例もあるようなのですが、そのような方法が現実的かどうかというところについて御意見をいただければと思いますが、お願いいたします。

吉本氏 実際テントとかは風雨が強いときにはなかなか難しいので、やっぱり固定の建物の中で行うのが有効なのではないかと思います。ですから、区として、そういう有効な、利便性の高いところを紹介していただけるのが我々としては希望です。

窪田氏 世田谷区医師会としても、ワクチン接種の時期の気候が問題になると思うので、ぜひ建物の中でやっていただくほうがありがたいと思っております。

寺西保健所住民接種担当副参事 分かりました。どうもありがとうございます。

あともう一つ、国からは、今回の接種に当たって、医師が1人と看護師2名のような3人がワンチームで1つの接種のブースを回していくというような手引きで出ているんですけども、先ほどお話の中では、医師が問診をやって接種まで行うという話もあったかと思うんですけども、現実的なやり方で、今、国が示している医師1名と看護師2名というのは体制としては多いのか、それとももう少し少ない体制で臨めるのか、そのあたりについて御意見をいただければと思うんですが、いかがでしょうか。

吉本氏 窪田先生もおっしゃっているように、看護師の確保が非常に難しいという現実を考えると、すぐさま対応できるのであれば医者がある程度の人数がいれば、問診から何から全部できますので、あとは救急の対応もできますので、1チームが例えば2人、3人にしても、同時に1つの施設に20人集まれば、そういったケアができるかと思いたすので、並んで問診がどんどん終われば、1人4分とありますけれども、例えば5、6人のドクターが入れば、かなりの量が短時間にこなせますので、マンパワーの分散ではなくて、ある程度のマンパワーの集約でやればいいのかと思います。

あとは、施設のかさが大きくなければ患者さんというか接種者も入れませんので、かさの大きいところを推薦していただけるように要望いたします。

窪田氏 前回の新型インフルエンザの実績のときに調べてみましたら、問診のほう時間がかかるんですね。10名の医師のチームでいると、問診が7名、接種3名で試行している例がございます。ですから、必ず1チームが3人とかそういうことよりは、少し問診のほうに医師を多く割いたほうが現実的ではあると私は思っております。

それと、何といっても看護師さんを1つのチームに2人は、現実的に無理なんじゃないでしょうか。本当に今、求人が大変ですよ。

寺西保健所住民接種担当副参事 ありがとうございます。最後に、私のほうから小原先生にお伺いしたいんですけども、質問の一番下のところに、このワクチンはまだ分からないところが多いと思うんですが、どれくらい有効なのか、免疫といいますか、まだ分からない中で、例えば来年とか再来年もという毎年のワクチン、インフルエンザワクチンのような形になるのか、どれくらい効果もつものなのか、現在で何かあれば教えていただければと思うんですけども。

小原氏 最近出た報告で、モデルナ社のワクチンを打って約120日経過した形での抗体価の推移の報告はあります。それでほとんど低下は認められていませんので、多分1年程度たってもそんなに大きく抗体価が下がることはないかなということは期待しています。ただ、それとは別に抗体価はあっても、中和抗体価の低下は非常に早いという報告もたくさんありますので、やはり経過は見てみないと分からない。ただ、期待としては1年程度、それと今回のモデルナ社とファイザーはmRNAワクチンとなっていて、この2つは、2、3年前に流行ったジカウイルスの時にかなりいろんな試験はされていて、抗体の持続性はかなりいいと。今までの不活化ワクチンなんかと全く違って、とても抗体の持続性が高いという報告もたくさんあります。そういうことから、多分1年程度は十分もつんだらうと。

それと、インフルエンザみたいにどんどん変わっていく、確かにすごく変異が今入ってはいますけれども、抗原変異がどんどん起きていくというほどはまだ変わっていません。だから、多分来年になっても、よほど抗原性が変わってしまったウイルスが突然現われないう限り、来年もう1回接種という話にはならないのではないかと期待はしています。

田中総務部長 ありがとうございます。ほかに区のほうから先生方に質問はありますか。

保坂区長 また小原先生に伺いたいんですけども、やはり海外でも、アメリカにしてもヨーロッパにしても、立てた目標に対して、なかなか進み具合が思うようにいかないという例

が報告されていまして、先ほど大型テントみたいな話がありましたけれども、スタジアムとかを使って、さらに多くの方に来ていただけてみたいなことをやり出していると。海外での進め方について、またいろいろな副反応の報告も少し出始めていると思うんですが、そのあたりの情報はいかがでしょうか。

小原氏 接種会場とかその形態については、先ほど医師会の先生方からお話があったように、日本とはやはり状況は違うと思いますので、やはり医師会の先生方の御意見を尊重されたほうがいいように思います。

保坂区長 副反応についての情報については、今のところいかがですか。

小原氏 副反応は、ファイザー社のものがモデルナ社のものよりも少し多いかなという報告かと思うんですけれども、やはりLNPというmRNAを送るための脂質の処方を使っている限り、組成物の中に対するどうもアレルギー反応みたいなので、この2つに対してはやはり注意をしていかなければいいと思います。

田中総務部長 ありがとうございます。ほかに区側から。

中村副区長 今日はありがとうございます。小原先生に教えていただきたいんですけども、このワクチンの特徴で2回打つというのがあります。国の基準で2週間という指定がありますけれども、これより短かったり長かったり、どの程度で効果が違うのか、また1回目のワクチンの種類と2回目が仮に違うとすると何か大きな差し障りがあるのか、その辺を教えていただけますか。

小原氏 今の御質問に対しては、実際に行われていないので何が起きるか分からないというのがお答えになります。だから、イギリスなんかで、ワクチンの量が足りないで1回接種した後、間隔を少し広げて、それでその間に新規の人とにかく先に打ってしまおうという動きをされていますけれども、実際にワクチンをつくっている会社としてはそういう治験を行っていないわけですから、それに対して、それでいいとか悪いとかという答えが出せないんです。やっていないことですので。

ただ、イギリス政府が考えているように、確かに今打っているワクチンは、1回打っただけでも抗体上昇とか細胞性免疫の誘導は認められています。ただ、確実にするために2回必要だと。2回打てば確実に上がりますということなので、例えば期限が3週間で打たなければいけないのが4週間になったから効かない、だからもう打ってはいけませんとか、そういう話にはならないと思います。打ったほうがいい。そういう対応だと思います。



中村副区長 分かりました。ありがとうございます。

田中総務部長 ほかにいかがですか。

寺西保健所住民接種担当副参事 小原先生に今の関係で御質問させていただきたいんですけれども、例えばファイザーであれば3週間の間隔ということは、実際に接種するに当たっては、1回目を打って、その後、予約を入れていくという流れになると思うんですけれども、きっかり3週間というのはなかなか難しいし、1回打った後に忘れてしまって2か月後に行くみたいなことも当然想定されると思うんですけれども、ファイザーが示している取扱いの基準みたいな中で、ほぼほぼ3週間きっかりじゃないといけないという厳密なものなのかそうでないのか、そこについて教えていただければと思うんですが。

小原氏 治験そのものが3週間で行われているので、だからそれを例えば6か月空いたらどうなるかとか、そういうのはデータがないんですね。だから、メーカーとしても答えようがない。ただし、実際には3週間で受けられないという人も必ず出ると思います。その人は、じゃ、もう受けても意味がないのかというと、普通に考えると、あくまでこれは推論ですけれども、効果はあるので2回目も受けたほうがいい、そういう指導をされたほうがいいと思います。

田中総務部長 ありがとうございます。

鶴飼保健所副所長 小原先生に教えていただきたいのですが、我々もこれからクーポンなりなんりの案内を多くの区民に出すんですが、その中で今回ファイザーとモデルナ社のは新しい形のワクチンだということで話を聞いているんですが、先ほどのそれだから副反応が出やすい部分もあるというお話も伺ったんですが、住民の方に受けなさいというんですが、こういう方は必ず受けることを注意されたほうがいいという禁忌者みたいなものがよく分からないんですが、そういったものを何か分かる範囲で教えていただければと思います。よろしくお願いします。

小原氏 これは、多分そうだろうと言われている原因が、粒子をつくるためにつくる1つの組成物に対してのアレルギー反応ではないかと言われている。それは今回のこのワクチンではなくて、がんワクチンなんかもこの方法で作られていて、その治験なんかでやはり同じようなアナフィラキシーを起こしていますので、そのときの原因もそれだろうという推測はされています。だから、どちらかということ、アレルギー体質の方はあらかじめ注意をして、アナフィラキシーみたいになってもすぐに対処できるような、先ほどから医師会の先生方がおっしゃられているような、お医者さんが何人もいるような場所で接種

をされて、30分程度の経過を見てから帰られる、そういう注意は必要かなという気はします。

それともう一つ、3つの会社のワクチンが、1回目はファイザーで、2回目はアストラゼネカみたいな、そういう組み合わせは安全性が確認されていません。だから、メーカーは組み合わせないように、できるだけ注意をされたほうがいいと思います。

田中総務部長 ありがとうございます。ほかによろしいですか。

保坂区長 世田谷区のほうで接種管理のデータベースをつくりまして、今おっしゃったように、何月何日にどのワクチンを打ったのかということ、クーポンとかで簡単に2回目の接種のときに分かるような仕組みを現在準備しているところです。これからの展開、非常に我々もいろいろ検討しているところなんですけれども、保健所長からの質問にもあったんですけれども、国からの情報で、ファイザー社のワクチンは975という非常に大きな単位で来て、しかも、ディープフリーザーを1日にあまり何回も開閉してはいけない、開けるのは2回程度が限界ではないかというお話もちょっと聞いていたり、これを普通の冷蔵庫の温度でなら5日間もつので、接種拠点みたいな、サテライトみたいなところに運んで、さらにそれを小分けして使っていくみたいなことが、当初国の説明の中ではあまりやらないよという話があったんですが、その後の新しい国の説明の中では、むしろそういうふうにしてはどうかと、ちょっと日々変わってきている面があるんです。

なので、前回ワクチンのことで小原先生にお話を伺ったときに、ドライアイスなどの調達も必要ではないかというお話もあったんですけれども、特にファイザー社のワクチンを運ぶということに対して、それはできると考えてよろしいのでしょうか。小原先生に伺います。

小原氏 ファイザー社のワクチンは、温度が上がると中に入っているmRNAが壊れてしまうんですね。それで、1日2回ぐらいしかフリーザーを開けてはいけないということのも、何度も開け閉めすると温度が上がってしまうので、それを防ぐということです。だから、輸送のときも粉のドライアイスできっちり周りを固めてそれで送るとか、そういうかなりな注意を払わないと、ただドライアイスが入っていますというだけだとそんなに温度は下がっていないので、ドライアイスを使っても温度はマイナス10度とか、マイナス20度ぐらいにしか下がっていないケースというのは結構ありますので、そういうところはかなり注意をされた輸送を考えたほうがいいと思います。

逆に言うと、ドライアイスで周りをきっちり、海外のものはほとんどそうで、大きな塊

のドライアイスでなくて、フレークタイプの粉々にしたそういうドライアイスを使って、その中に完全に埋め込んでしまうみたいな、そういう輸送をします。ドライアイスだけだったらマイナス56度ですので、半日ぐらいで輸送して、またマイナス80度に移動するとか、あるいはすぐに使うのでマイナス20度に保存するとか、そういうための輸送だったら可能性はあります。ただ、ドライアイスの形状と使う量をよほどしっかり管理しないと、温度が上がってしまってワクチンをだめにしてしまうケースが出てくるかと思います。

寺西保健所住民接種担当副参事 今、区のほうでは会場をなるべく多くするためには、ある拠点から小分けにして運ぶということを考えてはいるんですけども、国の通知なんかでは、1回解凍して、冷蔵の状態でごサテライト施設に運ぶようにということが示されていて、ただ、ワクチンの管理の関係もあって、3か所程度にしろということが言われております。この辺について、国から示されているのでそういった対応を考えているんですけども、実際に行った先に冷蔵庫のようなものを用意して、そこに保管して接種を行うという形で、集団接種を幾つもの会場でやろうということが現実的なのかどうかについて、小原先生のほうにお伺いできればと思うんですが、いかがでしょうか。

小原氏 実際にワクチンを低温できちっと輸送して、使うまでちゃんとそういう状態で保管されれば、それは可能だと思います。だから、輸送の仕方をきっちり管理できるようなシステムをつくっておくことが必要かと思います。

寺西保健所住民接種担当副参事 ありがとうございます。

保坂区長 小原先生、今の点で、国が出している資料によると、まずディープフリーザーがある区の施設、あるいは医師会の会館などに冷凍で配送されると。その先なんですが、冷蔵、つまり冷凍ではなくて冷蔵で運ぶと。そして冷蔵庫で5日間程度もちますみたいなことは書いてあるんですが、今、先生がおっしゃった粉状のドライアイスでしっかり低温管理して運ぶみたいなことがほとんど書いていないんですが、その点はどうか。

小原氏 これは別紙2ですか。

田中総務部長 今日お配りした別紙2というのは、新型コロナウイルスの特性というものです。これでよろしいですか。

小原氏 これにワクチンの保管温度と、流通のときに実際に開封後の保存で、希釈したら室温で6時間程度と。大体そんなものかなという気はするんですが、アストラゼネカはウイルスベクターなので、もう少し温度に対しては問題がない。室温でmRNAをそのま

ま溶かした状態で、あるいは溶かす前の状態ですか、国の6日間室温で置いていいというのは。

保坂区長 室温ではなくて冷蔵庫です。

小原氏 冷蔵ですね。

保坂区長 はい。冷蔵です。

小原氏 凍結乾燥の状態だったら、生理食塩水で希釈する前だったら、少しはそれで安定性があるので。ただ、その程度は多分大丈夫だろうということで、そのときの冷蔵庫、冷蔵庫といっても4度ぐらいで冷えている冷蔵庫もあれば、10度ぐらいしか冷えていない冷蔵庫とかいろいろあると思うので、できるだけ低い温度で保管しないと、温度が普通に冷蔵になった状態で既にもう壊れ始めていると考えられたほうがいいと思います。

だから、1週間たったら最初に出したときと同じかということ、それは同じではなくて、効果としては、まだ多分大丈夫だろうという、その程度にしか壊れていないだろうという考え方です。

保坂区長 ということは、この表にあるように、同じ保管するのも冷蔵庫ではなくてドライアイスで冷やして保持したほうが、機能は保持できると。

小原氏 保持できる。それと冷蔵庫よりは冷凍庫のほうがいい。

田中総務部長 ありがとうございます。先ほど窪田会長からは看護師の件とか、事務手続をしっかりとしてほしいという御要望をいただいたところでございます。今後、区として計画を具体的にしていく中で、また様々なアドバイス等をお伺いする機会があると思うんですけども、もうそろそろ会議の時間が終了には近づいていますが、これからについて何か今アドバイス等があれば、それぞれお願いできないかなと思いますけれども、吉本先生いかがでしょうか。

吉本氏 いろいろ情報をいただきまして、ありがとうございます。八王子市医師会なんかは、向こうの会長とも相談したんですけども、八王子市のほうは、お年寄りでも簡単にできる電子的な予約システムを今一生懸命ソフト会社につくらせているということで、高齢者でもできるということを目指しているそうです。先ほど電話予約と聞いたんですけども、これもまたちょっと言葉が悪いですけども、お役所仕事で9 5時なんかですと、全く予約ができないまま、つながらないまま終わることが予想されますので、逆に外注でコールセンターの専門のところに任せたほうがよっぽど24時間対応でいいのか

などは思います。要するに、1回やって3週間後とか4週間後の2回を同時に予約しないといけないということですので、そうしないと次の予約が取れないまま結局時間が過ぎてしまうということにもなりかねません。

医師会の要望としては、1月の末までに大体の場所を選定していただいて、それを我々に聞かせていただいて、じゃ、それが現実的に大丈夫なのかどうかというのを、やり取りを早急にしなければいけないので、そのシミュレーションを、我々も投げかけましたので、その返事を早くいただきたいと思います。それが現実的に可能かどうかを判断した上で、今後我々ができる限りマンパワーを確保してお手伝いしたいと思いますので、その辺、よろしくをお願いします。

田中総務部長 ありがとうございます。ちなみに、予約はコールセンターとオンラインを予定しているそうでございます。また詳しく御説明できると思います。

では、窪田会長、何かいかがですか。

窪田氏 大体要望は吉本会長と一緒になんですけれども、予約をしても、1割の方は来ないことが前回の新型インフルエンザのときにありましたので、大体1割増しで予約をお取りになったほうが、予定人数の1割増しで予約を取るようにしたほうが現実的だと思います。

田中総務部長 貴重なアドバイスをありがとうございました。

小原先生にはいろいろ専門的な御助言をいただきましたけれども、何か一言アドバイスいただければと思いますが、いかがでしょうか。

小原氏 もう今までもお話ししたことに尽きますので、とにかく安全に。あとは、いろいろなメーカーで温度管理とか輸送の方法がみんな違いますので、そこら辺は混乱しないようにうまく整理をされることが必要なと思います。

田中総務部長 ありがとうございます。区としても初めての大きな事業ということですので、今後も御相談しながらやらせていただければと思います。

それでは、最後に区長から一言お願いします。

保坂区長 今日は大変貴重なアドバイス、また御提案をいただきまして、ありがとうございます。小原先生には専門の立場から、ワクチンについてどのように扱えばいいのかということについて、少し我々も認識を新たにされたところがございます。

吉本会長からは具体的な接種体制の御提案もいただきまして、大変心強く思っておりますし、我々のほうも5つございます総合支所で地域本部をつくりまして、そちらでっか

りとどこの会場がいいのかという選定を現在始めているところで、月末には、こういった場でどうかという御相談ができると思います。今、連日作業を続けております。

また、PCR検査も御協力をいただき、両医師会には大変感謝しております。世田谷区内は、それでもまだまだ陽性者は非常に増えております。今、在宅で入院を待っている方がかなりあふれてきているというところで、これへの対策もしっかりやっていかなければというところが本当に急がれている状況です。こういった中で、現状のコロナの陽性者の対応をしていく中で、さらにワクチン接種92万人掛ける2なので、大変な事業になりますけれども、ぜひ今日の議論を基に今後実務を組み立てていきますので、これからの御協力をよろしくお願いしたいと思います。今日はどうもありがとうございました。

田中総務部長 ありがとうございました。今後も、ワクチンはもちろん、感染拡大の状況なども踏まえながら、またこうした情報交換の機会を設けさせていただければと思います。今後とも、どうぞよろしく願いいたします。ありがとうございました。

なお、Zoomにつきましては、事務局のほうから会議の終了の操作をさせていただくということでございます。よろしく願いいたします。

どうもありがとうございました。

午後7時54分閉会